

世界とつながる。  
世界に広がる。



## 「連合農学研究科 国際コンソーシアム」 アジア10大学と 教育ネットワークを構築

平成25年、東南アジア・南アジア地域5カ国10大学と連合農学研究科を結ぶ、教育連携コンソーシアムを設立しました。各国の大学や企業をつなぐ国際的なネットワークを築き、今までにない人材交流や学びの場の提供を目指します。

### この取り組みが目指すもの

- 留学生が岐阜大学で学び、その後、母国に戻って教員となり、その教え子が日本に留学するという「国際循環型教育システム」を作り上げる。
- 日本と母国との架け橋となり、アジア経済圏の発展に寄与するよう次世代のリーダーたちを育成する。

発展著しいアジア諸国と  
相互に学びを深める。

**鈴木(文)** 岐阜大学大学院連合農学研究科は平成3年に設置されましたが、修了生の約半数が留学生でそのうち4割が母国で教員になっています。そこで、アジア各国に散らばる修了生のネットワークを活かした循環型教育システムの構築を目指して発足したのが、「国際コンソーシアム」

です。各国の有力大学で学ぶ優秀な学生を岐阜大学に招き、修了後は母国で教員になってもらう。そんな循環型教育システムを作り上げ、各国を代表する次世代のリーダーを岐阜大学から育成していくのが狙いです。平成24年7月に第1回国際会議を岐阜で開催し、10月にはアジア10大学が参加を表明。平成25年7月の第2回国際会議では正式名称と略称が採択され、本格的に活動が開始し

### 将来的には…

- 東南アジア・南アジアに1カ所ずつラボを建設。
- 各大学の博士課程の講義を、テレビ会議システムを使って現地にいながら受講。

アッサム大学/インド

インド工科大学グワハティ校/インド

岐阜大学/日本

ハノイ工科大学/ベトナム

ボゴール農科大学/インドネシア

ガジャマダ大学/インドネシア

スプラス・マレット大学/インドネシア

アンダラス大学/インドネシア

ダッカ大学/バングラデシュ

カセサート大学/タイ

チュラロンコン大学/タイ

ました。平成26年度は教員の相互派遣などを行う予定です。

**鈴木(徹)** アジアと日本の関係性はここ数年で明らかに違ってきています。今や対等なパートナーになりつつある。超高齢社会の日本にとって、アジアの若者たちの発展に寄与することは非常に有意義だと感じています。

**光永** 私はインドネシアからの留学生の指導や現地で共同研究を行っています。国際コンソーシアムを通じて、現地の豊富な森林資源を有効活用する場を見つけていきたいと考えています。

**小山** 私の担当は主にインドの各大学とのネットワーク作りです。インド工科大学などはとても優秀で、10年後には完全に対等な立場になるでしょう。最近の海外の若い学生たちにはすでに日本へのリスクペクトはなくなりつつあります。国際コンソーシアムは、日本人の学生がこうした現実を知る意味でも、とても重要だと思っています。

**山下** 私は社会人入学の院生ですが同期の約半数は留学生です。先日の夏合宿では一緒に生活する中で今までの各国のイメージとは違った印象を受けました。こうしてさまざまな国の方々と直に交流できるのはとても貴重だと感じています。

**ライハン** 私もこの国際コンソー

シアムをきっかけに、日本とアジアがもっと交流できればと思います。日本の学生にも現地に足を運んでもらい、各国の実情を肌で感じてもらいたいです。

**ナヌン** 私が教員を務めるガジャマダ大学では、留学生は大歓迎です。専門の化学の分野はもちろん、文化の面でもお互いに学ぶべき点は多いと思いますね。

**吉田** 平成25年7月には事務職員の立場からインドネシアの大学を視察しましたが、現地の発展ぶりに驚かされました。成長著しいアジアとの交流をしっかりとサポートしていきたいですね。

10年後には岐阜大学の講義が  
アジア各国で学べるように。

**鈴木(文)** 国際コンソーシアムには、現地の大学で教員となった修了生たちをフォローアップしていく側面もあります。母国に帰ってからも、講師から教授へのステップアップを、研究支援などを通してサポートしていく。このようない貫した人材教育も大きな目的のひとつです。ここまで深い関係性は、日本国内はおろか欧米諸国のプログラムにもありません。

さらに、現地で岐阜大学のラボを建設する構想もあります。東南アジア、南アジアに1カ所ずつ研究拠点を設置し、現地の学生

と一緒に研究を行う。そんなことができればと考えています。

**鈴木(徹)** 地球が抱える温暖化や食糧、エネルギーの諸問題はすべて農業に関わる分野です。私たちに求められているものの大きさを考えると、国際コンソーシアムをきっかけにして、今までのやり方を壊すぐらいの意気込みで海外と積極的に交流を深めていかないといけないと痛感しています。

**光永** インドネシアでは日本に留学したいという学生はたくさんいますが、経済格差から容易ではありません。そのため10年後にはこの取り組みを通して、現地で岐阜大学と同じ教育を受けられるようになり、岐阜大学を修了した称号も得られるといいなと思います。また、現地で教員の職に就いた修了生が岐阜大学で教えることで、日本の学生も外国の大学の単位を取得できる仕組みができればと思います。

**小山** 岐阜大学は中規模大学です。だからこそネットワークが軽いのが強みです。また大きな大学と違い、アジア諸国から積極的に留学生を受け入れてきたことは、とても大きな実績であり財産です。国際コンソーシアム

によって、私たちの大学が日本の大学の現状を打破するようなモデルケースになればいいなと思います。

連合農学研究科 修了生  
(平成23年6月修了)

ナヌン アグスさん

連合農学研究科を修了後、母国・インドネシアのガジャマダ大学で講師を務めている。



連合農学研究科 修了生  
(平成25年9月修了)

ライハン ジャヒルさん

交換留学生としてバングラデシュから岐阜大学へ。国費留学生として大学院へ。製薬会社勤務。

連合農学研究科  
博士課程1年

山下 晋司さん

日本の食品会社で26年間、研究開発業務に従事。平成25年4月に連合農学研究科に入学。



応用生物科学部  
連合大学院事務室 連合農学係

吉田 智子 係長

平成24年8月から国際コンソーシアムの事務も担当。経費や学生の健康などを管理支援。



応用生物科学部

小山 博之 教授

専門は植物科学。アッサム地方でお茶の栽培を行うなど、インドでの農業や林業の研究に注力。



応用生物科学部

光永 徹 教授

専門は天然物化学。主にインドネシアの植物が生成する、健康に役立つ有効成分の研究を行う。



連合農学研究科

鈴木 徹 教授

専門はゲノム微生物学。国際コンソーシアムでは全体の調整を務めている。



連合農学研究科長  
応用生物科学部

鈴木 文昭 教授

平成23年4月に連合農学研究科長に就任。就任1年を経て、国際コンソーシアムを設立。